第 26 回　災害糞尿譚（学）～トイレもままならぬご時世

ＩＴ生

このところ、マンション防災に取り組みはじめた。

現在居住している六甲の山裾では、マンション建設ラッシュである。つまり、人口密度がここ数年で高くなっているということだ。したがって、公的避難所に避難しても、食料にしてもトイレの順番にしても、なかなかお鉢が回ってこないということになりつつあるからだ。トイレにいたっては、バキュームカーすら消えつつあるというのだから考えようによっては、地震そのものより、恐怖である。

２２年前の阪神大震災の時ですら、市内で〝活躍〟していたのは２０台で、少ないと問題になった。今はさらに少なく、山間部しか走ってないという。じゃあどうすればいいのか？と神戸市にきいてみると、「ご自分で携帯トイレの準備を」という。

九州豪雨の被災地朝倉市に出動した災害トイレカー（奥田和子氏提供）

携帯トイレとはなんぞや、と調べると、少なくとも２種類ある。凝固剤を使うモノと、凝固させるとともに薬剤で消毒殺菌してしまうものとである。種類は凝固剤系が扱いやすくて、種類が多いのだが、どちらかというと、平常時のドライブ時とか、アウトドア用で

ある。非常時にも使用はできるが、後処理が遅れると、時間がたてば元にもどるので、ガスが発生して爆発しかねないことになるという。薬剤系は種類は少ないが、普通ゴミとして処理できるようになるため、大規模災害時には有用だろう。なにより、慣れ親しんだ自宅のトイレにビニール袋を用意するだけでいいのがうれしい。

こうした、肝心要のトイレ事情ですら、内閣府は凝固剤系、経産省は薬剤系を推奨するなど、各省庁の縦割りの中で分断されてしまうのだから、日本の防災体制もこころもとない限りである。いまでも強烈に鼻腔の記憶に残るバキュームカーが今や懐かしくもある。

寺田寅彦師も、関東大震災の「震災日記」で食料の心配はしているが、糞尿の記述はない。とうてい糞尿譚の未来までは想像が及ばなかっただろう。

（平成 29 年 9 月）